

第1部 研究の概要

国立社会保障・人口問題研究所 2011～2013 年度人口問題プロジェクト研究

わが国の長寿化の要因と社会・経済に与える影響に関する人口学的研究

－ 第1報告 －

研究要旨

世界にも類を見ないわが国の長寿化のメカニズムと背景、また、これらが日本社会に与える影響を的確に捉えるためには、死亡データベースの構築とそれに基づいた人口学的分析を中心としつつ、社会・経済面や医学・生物学的視点などに基づく学際的アプローチが不可欠である。また、寿命に大きく影響を与え、生存のクオリティの大きな要素である健康に関してもあわせて分析を行う必要がある。しかしながら、長寿化の要因・影響に関し、人口学的分析を核としながら、関連分野との連携を図って総合的な知見を得る研究の蓄積は未だに多くないのが現状である。

そこで、本事業は、海外の先進的な死亡データベースの事例を情報収集し、わが国の生命表を人口分析の目的から総合的に再編成した「日本版死亡データベース(Japanese Mortality Database, JMD)」を構築し、長寿化について健康を含めた多角的かつ学際的なアプローチに基づく総合的な分析を行うとともに、長寿化が社会・経済に与える影響についても考察を行う。そして、これらを通じて、豊かな経験と知識を持つ健康な高齢者の社会参加に基づいて経済の成長を目指す、新たな「知識集積型長寿社会モデル」提示のために必要な基礎的研究を蓄積する。

研究者の組織

所内担当：

佐藤龍三郎（国際関係部長）
高橋重郷（副所長）
白石紀子（情報調査分析部第三室長）
別府志海（同部主任研究官）
野口晴子（社会保障基礎理論研究部第二室長）
泉田信行（社会保障応用分析研究部第一室長）
石井太（人口動向研究部第三室長）

所外委員：

河野剛果（龍澤大学名誉教授）
鈴木隆雄（国立長寿医療研究センター研究所長）
堀内四郎（ニューヨーク市立大学教授）
ジョン・ウィルモス（カリフォルニア大学バークレー校准教授）

A 研究目的

わが国の平均寿命は 20 世紀後半に著しい伸長を遂げ、2010 年には、男性 79.64 年、女性 86.39 年と、現在、世界有数の長寿国として国際的に見てもトップクラスの水準を誇っている。そして、「日本の将来推計人口（平成 24 年 1 月推計）」によれば、平均寿命は 2060 年には男性 84.19 年、女性 90.93 年（死亡中位仮定）に達すると推計されており、今後も長寿のフロントランナーとして走り続けるものと見込まれる。

このような、世界にも類を見ない長寿化のメカニズムと背景、また、これらが日本社会に与える影響を的確に捉えるためには、死亡データベースの構築とそれに基づいた人口学的分析を中心としつつ、社会・経済面や医学・生物学的視点などに基づく学際的アプローチが不可欠である。また、寿命に大きく影響を与え、生存のクオリティの大きな要素である健康に関してもあわせて分析を行う必要がある。しかしながら、長寿化の要因・影響に関

し、人口学的分析を核としながら、関連分野との連携を図って総合的な知見を得る研究の蓄積は未だに多くないのが現状である。

そこで、本事業は、海外の先進的な死亡データベースの事例を情報収集し、わが国の生命表を人口分析の目的から総合的に再編成した「日本版死亡データベース (Japanese Mortality Database、以下 JMD)」を構築し、長寿化について健康を含めた多角的かつ学際的なアプローチに基づく総合的な分析を行うとともに、長寿化が社会・経済に与える影響についても考察を行う。そして、これらを通じて、豊かな経験と知識を持つ健康な高齢者の社会参加に基づいて経済の成長を目指す、新たな「知識集積型長寿社会モデル」提示のために必要な基礎的研究を蓄積する。

この目的のため、本研究プロジェクトでは、所内担当者・所外委員の他に、厚生労働省本省等の職員、生命保険・損害保険のアクチュアリーなどにオブザーバーという形での研究会への参加を依頼し、幅広い観点からの討論を可能にするとともに、わが国の新たな死亡研究ネットワークの構築を目指している。

このように、本研究は、わが国の長寿・健康に関するこれまでにない総合的な知見の集積をもたらすと同時に、各方面の施策立案への応用にも資するものである。

B 研究方法

本事業では以下の3つのパートに分けて研究が進められる。

① データベース (JMD) 構築

- ・データベース企画 (H23)
- ・データベース開発 (H23～H25)
- ・データベース公開準備・公開 (H25)

② 人口学的分析

- ・長寿化に関する人口学的分析 (H23～H24)
- ・健康生命表分析・健康状態変化のモデリ

ング (H23～H25)

- ・高齢者人口推計の感度分析など死亡が人口変動に及ぼす影響評価分析 (H24～H25)

③ 学際的アプローチ

- ・医学・生物学的視点から見た長寿化分析 (H23～H24)
- ・社会・経済面からの長寿化・健康分析 (H23～H25)
- ・長寿化が社会・経済に及ぼす影響 (H24～H25)

(ただし、年次は重点的に取り組む年次を示したものであり、実際には全項目が並行的に行われる。)

C 研究実施状況

Bで述べた3つのパート毎に初年度の実施状況を述べると以下の通りである。

① データベース (JMD) 構築

初年度においては、データベースの企画及び全国ベースの生命表データベース開発、さらにHMDとの比較・検討を行った。また、死因別データベース構築に関する基礎概念整理の観点から、厚生労働省統計情報部斎藤重正課長補佐による「国際的な死亡統計に用いる死因分類の考え方について」との講演・討論を行った。

② 人口学的分析

初年度においては、長寿化に関する人口学的分析、及び健康状態人口モデルに関する分析として、患者調査を利用した人口高齢化と健康構造の変化に関するシミュレーション分析に関する準備を実施した。

③ 学際的アプローチ

医学的視点から見た長寿化に関連し、所外委員鈴木隆雄所長による「我が国の超高齢化

と健康問題」、生物学的視点から見た長寿化に関連し、総合研究大学院大学長谷川真理子教授による「進化生物学から見た動物の寿命」との講演・討論を行った。

また、長寿化が社会・経済に及ぼす影響に関連し、オブザーバー三菱UFJ信託銀行株式会社年金コンサルティング部中込信之調査役による「年金アクチュアリーと死亡率・長寿リスクについて」との講演・討論を行った。

なお、以上で述べたものも含め、初年度に行った研究会は以下の通りである。

第1回（平成23年6月1日）

石井 太「わが国の長寿化の要因と社会・経済に与える影響に関する人口学的研究プロジェクトについて」

鈴木 隆雄「我が国の超高齢化と健康問題」

第2回（平成23年6月1日）

長谷川 真理子（総合研究大学院大学教授）
「進化生物学から見た動物の寿命」

第3回（平成23年11月1日）

齋藤 重正（厚生労働省大臣官房統計情報部人口動態・保健統計課長補佐）「国際的な死亡統計に用いる死因分類の考え方について」

中込 信之（三菱UFJ信託銀行株式会社年金コンサルティング部調査役）「年金アクチュアリーと死亡率・長寿リスクについて」

D 研究発表

本プロジェクトにおける研究報告（上記）以外に、本プロジェクト委員によってなされた（あるいは予定の）関連した研究発表としては次のものがある。

(1) 論文発表

なし

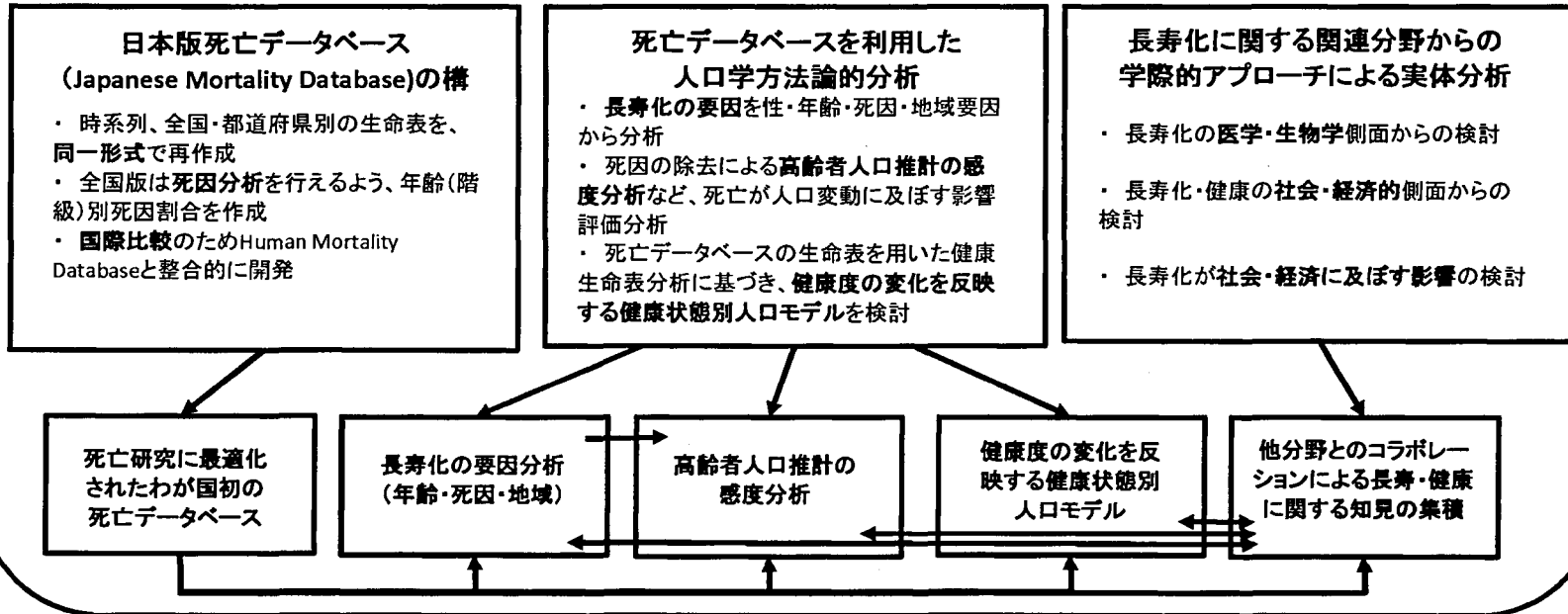
(2) 学会発表

石井 太(2012)「死亡率曲線の自由な方向

への変化を表現する数理モデルとわが国の将来生命表への応用」日本人口学会第64回大会（東京大学駒場キャンパス：予定）

わが国の長寿化の要因と社会・経済に与える影響に関する人口学的研究 事業内容

本研究事業における事業概要



期待される効果

将来人口推計の死亡仮定の精緻化
構築されたデータベースは死亡仮定の基礎資料となるとともに、長寿・健康に関する分析から得られた知見は仮定の精緻化に資する

医療・福祉の需要面の検討
平均寿命伸長の年齢・死因別の寄与や地域差分析、またその応用としての高齢者人口推計の感度分析、及び健康生命表分析に基づ健康度の変化を反映する健康状態別人口モデルは、今後の医療・福祉の需要面の検討に資する

高齢期の生活保障の検討
死亡パターン・ライフスタイルの変化と社会・経済との関係の研究は、高齢期の生活保障の検討に資する

事業行程

